



### ③ 小中連携 ～対象を小学校高学年から中学生とする本の配備～

年度当初、中学校の司書の先生と互いの図書館事情と児童・生徒の実態を情報交換をした。小学校では、高学年の児童に対して、図書館が行きたくくなるような魅力的な場所として機能し、読書の幅を広げてほしいと考えた。そこで図書館に中学校でも人気のシリーズ本や、対象を小学校高学年から中学生とする本を配備することにした。中学校にも配備されている本ということもあり、図書館に行くと幅広く選択肢の多い蔵書を知ることにもなり、それが図書館に行く意欲にもつながり、高学年も継続して来館するようになった。取り扱う蔵書の連携は今後も続けていきたい。

### ④ 小中連携 ～中学校2年生による小学校1年生への読み聞かせ～

職場体験活動として中学生が小学生に大型絵本を2冊、読み聞かせをしてくれた。1年生の子どもたちは、ちょうど国語科で学習を進めていた単元の絵本ということもあり、一緒にお話の世界を楽しんでいた。もう1冊の方も入学期のスタートカリキュラムでも読み聞かせとして取り上げている本ということもあり、親しみをもって読み聞かせを楽しんでいた。中学生の読み聞かせの後、実際に手に取って同じ本を見たり借りたりする児童が多くいた。この職場体験での児童と生徒の交流活動も継続を期待する。



## (2) 学習センターとして ～学習に有効な図書資料の提供～

### ① 「学校図書館活用年間計画」の加筆修正と見直し

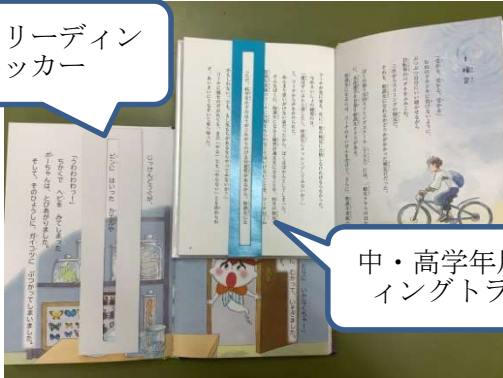
令和6年度、教科書改訂に伴い、司書教諭を中心に図書館教育部で「学校図書館活用年間計画」を作成した。これをたたき台にして、令和7年度は特別支援学級も含む18人の全学級担任で「学校図書館活用年間計画」の見直しを行った。学級担任からは、次期や内容の見直しとともに、図書資料の活用が特に有効と思われる学習活動を明確にもらった。今後更に実践を引き継ぎつつ、随時加筆修正を加えていきたい。

### ② 読書バリアフリーの取組

#### ○リーディングトラッカーの活用

児童が手に取る本の行間に応じて3種類のリーディングトラッカーを作成した。全学級、毎週ある図書館利用に時間にリーディングトラッカーの使い方を説明し、全児童が体験できるように人数分用意して活用している。特に特別支援を要する児童や特別支援学級の児童に対して、適切な合理的配慮の一つとなっている。今後は児童が必要な時に活用していけるように、学級への配備を考えている。

低学年用リーディングトラッカー



中・高学年用リーディングトラッカー



読みやすいね！

### ○本の背表紙シール(請求記号ラベル)の変更

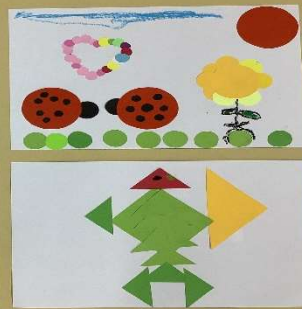
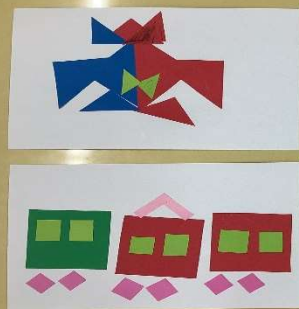
本の背表紙シール(請求記号ラベル)を既存のものから、1桁目の数字がカラーで大きく書かれているものに変更した。視覚的にも分類が見やすく、かつ覚えやすくなり、自力で本を探し調べる力を身に付ける大きな助けになっている。また、中学校図書館と同一のものにすることで、戸惑うことなく学ぶ機会を継続して得られるようにした。

### ③図書活用実践例

【特別支援学級】 国語「えほんであそぼう」

「かくかくしかく」「さんさんさんかく」「まるまるころころ」(得田之久 童心社)の3冊を読み聞かせを行った後、自分たちでも選んだ形(丸か四角か三角)を組み合わせた作品作りに取り組んだ。

この3冊の絵本はあてっこ型になっており、絵本に出てくる形や色、オノマトペからそれらを組み合わせたら何になるのかを考えることを楽しみながら読み聞かせを聞く姿が見られた。1年算数の「かたちあそび」や図工の単元と関連付けて行うことも可能である。



## 【4年】国語「和と洋新聞」をつくらう

集めた材料を分類して、項目ごとにまとめ新聞にまとめる学習を進めていく際に、今回は図書館にあった本を活用した。

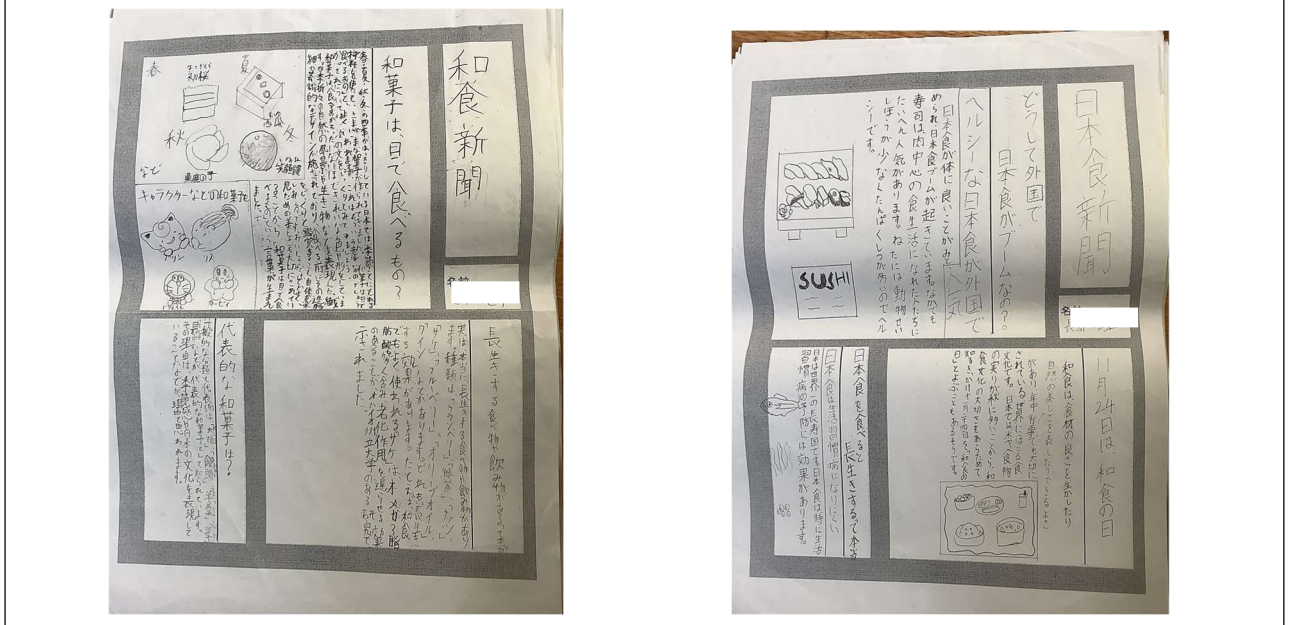
今回の新聞づくりのテーマは「和食の魅力伝える」ことと設定した。その内容に沿った本を司書から数冊選書してもらった。今回は、その中から「日本食の大研究」という本を選んだ。この本を選んだ理由は以下の通りである。

- ①見開き2ページで一つのテーマがまとまっているので見やすいこと。
- ②テーマごとに小見出しがついているので、子どもが新聞に活用する情報を見つけやすいこと。
- ③イラストや写真が多く掲載されているので、子どもが内容を理解しやすいこと。

以上の三点の理由から、こちらの本を活用することにした。

また、子どもたちには本の中で新聞づくりに活用しやすいページを教師側が8ページに絞り、それを画像データとして配付した。このようにすることで、全員に資料を渡すことができ、またある程度、情報を絞りこんだ状態で子どもたちに渡すことで、より調べやすい状態をつくることができた。

子どもたちがつくった新聞は以下のような新聞をつくることができた。



## 【6年】国語「発信しよう、私たちのSDGs」

前単元「プラスチックごみの問題について考えよう」の学習を通して、環境問題への興味・関心を高め、解決に向けた具体的な取組について学習した。本単元では、SDGs という幅広い観点で私たちが抱えている問題について調べ、どのように行動するべきかについて調べて、まとめる学習を行った。

調べ方については個別最適化を図ったが、ほとんどの子どもがインターネットを活用していた。そこで本で調べることのよさについて全体で考えた。「学校にある本は子どもたち向けの本が多く、分かりやすい」「表やグラフなどの資料を用いて説明されていることが多く、分かりやすい」などの意見が出た。その後、本とインターネットを併用して調べ学習をする子が大半を占めた。本での調べ学習の良さに気付くことができた。



### SDGs、2と6の目標 問題点

#### 2. 飢餓をなくそうについて

SDGs目標2「飢餓をゼロに」には、いくつかの問題点がある。まず、紛争や気候変動による干ばつ・洪水が食料生産を不安定にし、特に途上国で深刻な飢餓が続いている。また、農業技術やインフラの不足により生産性が上がらず、小規模農家は市場アクセスも弱く貧困から抜け出しにくい。さらに、世界全体では食料が十分に生産されているにもかかわらず、流通の不備や食品ロスにより必要な人に届かないという非効率も大きな課題である。価格変動によって食料が手に入らなくなる脆弱な地域も多く、これらの複合的な問題が目標達成を難しくしている。

#### 3. 安全な水とトイレを世界中に

SDGs目標6「安全な水とトイレを世界中に」には、いくつかの深刻な問題点がある。まず、安全な飲料水や衛生設備へのアクセス格差が依然として大きく、特に途上国や紛争地域、農村部ではインフラ整備が進んでいない。また、気候変動による干ばつや洪水が水資源の安定供給を脅かし、水質悪化や汚染の拡大を招いている点も大きな課題である。さらに、水管理に関する制度や運営体制が弱く、維持管理の不十分さによってせっかく整備した施設が継続的に利用できないケースも多い。都市化に伴う水需要の増大や下水処理の遅れも環境負荷を高め、持続可能な水利用を困難にしている。これらの要因が目標達成を阻む問題となっている。

<成果〇と課題●>

- 司書と担任で連携を取り，複本も含めて学級の児童数以上の図書を用意することにより，並行読書や調べ学習を効果的に実施することができた。
- 司書の専門的知識を生かすことで，教科書に例示されている図書の他にも幅広い視点で図書を揃えることができ，児童の学習意欲を高めるのに効果的だった。
- 学年の発達段階に適した書籍だったか，学習効果を高めるために有効であったか等を学習後に担任から評価してもらう必要がある。そして，次年度に生かしていくことができるように，活用年間計画に加筆修正を加えたり，システムを確立したりしていくことで，さらに学習効果を高めることができるのではないかと考える。
- オレンジBOXの存在や，複本での用意が可能であることを知らない職員が複数いることが分かった。今後，積極的に情宣していく必要がある。
- 学年が上がるにつれてweb検索やインターネットを利用した調べ学習が多くなり，図書による調べ物を敬遠する雰囲気は否めない。児童が自分に合った学び方の中で，デジタルとアナログの双方のよさを柔軟に選択して学習を進めたり，多様な蔵書をふれ合ったりしていけるように働きかけを続ける必要がある。

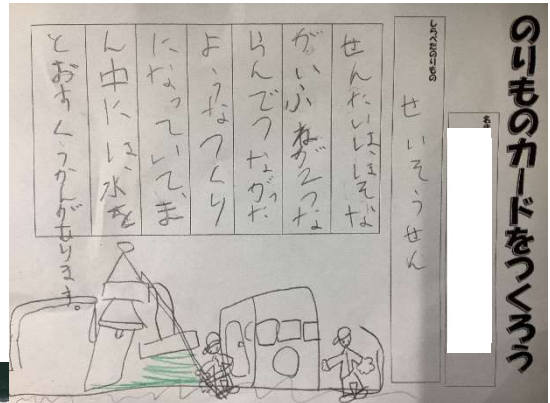
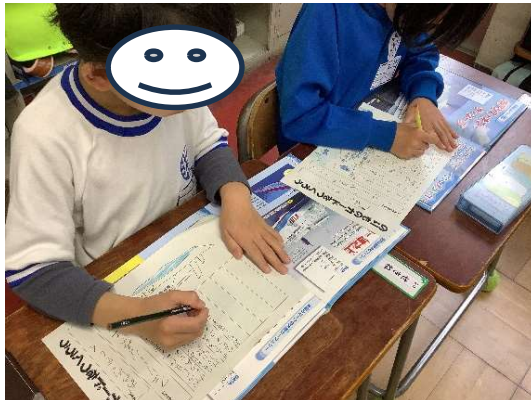
(3) 情報センターとして

① 索引を使った調べ方の学習

【1年】国語「のりものカードをつくろう」

教科書本文の4種類の船の特徴を学習した後，国語の学習と関連させて，図鑑の索引を使った調べ方についての学習を行った。

索引を使うと，自分が調べたい乗り物について載っているページを見付けることができることを学んだ。担任と司書で連携を図り，教科の学習内容と関連付けながら，適切な時期に実施することで，更に学習効果が上がると思われる。



船の本はブックトラックに集めて貸し出してもらった。



カードを書く時には，図鑑の記述から「しごと」と「り」にあたる部分を探して，教材文の書き方にそって，本を司書にそろえてもらった。

## ②司書との連携を生かした調べ学習

【2年】生活科「うごくうごく わたしのおもちゃ」

児童は、牛乳パックや紙コップなど身近な物に触れながら、どんなおもちゃを作りたいかを考えた。考える際の補助資料としてインターネットや図書を活用させた。図書については、司書と連携し、低学年児童が理解しやすく扱いやすいものを収集した。図書資料は、興味や関心を高めるため、生活科の時間以外でもいつでも読めるように学級内に設置した。最初はインターネットで調べていた児童もいたが、情報量の多さから決められず、最終的には図書を活用する姿が多く見られた。図書には、内容の分かりやすさに加え、フリガナが付いているため読みやすかったり、分からないところを何度でもすぐに確認できたりする紙面の良さがある。児童は、おもちゃの写真や挿絵から想像を膨らませながら、一生懸命に説明を読み、おもちゃを完成させていた。



【3年】国語「道具のひみつをつたえよう」

教科書本文の「せっちゃくざいの今と昔」を学習後、自分が興味をもった道具を紹介する活動を行った。その時に、道具が発明された理由、道具の作り方、道具の移り変わり等について調べるために学校の図書館の本や司書が取り寄せた本を活用した。多くの本を読むことで自分の興味のある道具を見付けたり本に書いてある説明を読みまとめたりすることができた。担任と司書が連携を図り、学習単元の内容や発達段階を踏まえ、本を用意することで、児童は主体的に学習に取り組むことができる。



### 📖 けしごむのひみつ

<p><b>1 調べた理由</b> わたしが小さい頃から使っている道具は消しゴムです。消しゴムがないと、字を間違えた時なおすことができません。そんなすばらしい消しゴムがいつのようか、発明されたのかを知りたいと思い調べてみました。</p>	<p><b>3 調べて分かったこと</b> ①消しゴムの発明 世界最初の消しゴムは、イギリスの科学者ブリストリーが天然ゴムでえんぴつの字が消せることを発見したのをきっかけに1772年誕生した。 ②消しゴムの作り方 原料のプラスチックに弾力をもたせる薬品などをいれよくまぜあわせる。普通の四角い消しゴムは、原料を大きな板状の型にながしこむ。加熱しながらプレスする。熱をさましてから、決められた大きさに切る。普通の四角い消しゴムは、ケースをつけ、セロファンでほうそうしてできあがる。</p>
<p><b>2 調べ方</b> 図書館で百科事やどうの図鑑をはじめ消しゴムについて書かれている本をさがしました。インターネットも使って調べました。</p>	<p><b>4 まとめ</b> 昔は、消しゴムがなくてパンを使って字を付けていました。消しゴムが実在してから消しゴムで消せるようになりました。消しゴムは、べんりだと思いました。</p>
<p>&lt;調べるときに使った本やウェブページ&gt; ・「鉛筆や色鉛筆はこうつくる」 (徳成社、2003年)</p>	

## 【5年】国語「和の文化を発信しよう」

### 【5年】 国語「和の文化を発信しよう」

前単元「和の文化を受けつぐ」の学習を通して、和の文化への興味・関心を高めた。本単元では、自分が興味をもった和の文化について調べ、ポスターにまとめる活動を行った。その際、図書館の図書を活用し、調べ学習を行った、

インターネットと図書のどちらを使ってもよい形で調べ学習を進めたが、始めから図書を活用して調べようとする子がクラスの3分の1ほどいた。インターネットは、情報量が多すぎたり、大人向けの文章でまとめられていたりすることも多く、調べづらさを感じる子もいた。今後、子どもたちが探究学習を進める上で、デジタルとアナログの双方を自分の学び方で選択し、情報を活用していけるように働きかけていきたい。



この写真にした理由は、とても美味しそうな画像だし、画質もよさめだからです！  
このキャッチコピーにした理由は、お月見団子は、収穫への感謝と、来年の豊作や家族の健康と幸せを祈願する意味が込められているからこのキャッチコピーにしました！  
お月見団子は十五夜はちょうど米の収穫時期と重なるため、月に見立てたお米の団子をお供えすることで、無事に収穫できたことへの感謝と翌年の豊作を祈願したとされています。あと丸い形は満月を象徴しており、物事の結末や運命の円滑、健康、幸福を願う縁起物でもあります。そして月見団子を食べることで、月の力を分けてもらい、1年間の健康と幸せを得ることができると信じられています！



### <成果○と課題●>

- 司書との授業で取り上げた情報の収集・選択・活用のためのスキルをその後の様々な学習活動でも適宜使わせることで、確かな力として身に付けさせていくことができると分かった。
- 今年度、全体計画を見直し、情報センターとしての各学年の指導の重点を明確にしたが、各学年で身に付けさせたい具体的なスキルの位置づけが不十分であった。単元の学習に入る前に、百科事典での調べ方についての学習を行ったり、学習シートに参考図書を書く欄をあらかじめ設けて、本で調べた際には出典を明らかにする必要があることを指導に加えたりするなど、司書との活動が有機的に働く環境作りが必要である。機会をとらえて系統立てて指導できるように、図書館活用年間計画に明記するようにしていくことが求められる。
- 学年が上がるにつれて、限られた時間の中で情報の収集・選択・活用のためのスキル学習の時間を特別に作りだすことが難しい現状がある。どの教科・単元で取り扱うことが効果的かを明らかにするとともに、担任が各教科の学習の中で手軽に活用できるような提示資料の提供や、図書室の掲示物等の環境整備などにより、情報センターとしての機能を高めていくことも考えていく必要がある。